

平成29年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
多角化経営部門

「魚のゆりかご水田」による環境教育・6次産業化を通じた地域活性化

○氏名又は名称 栗見出在家町魚のゆりかご水田協議会（代表 村林 又藏）

○所在地 滋賀県東近江市

○出品財 経営（米、麦、大豆等）

○受賞理由

・地域の概要

東近江市栗見出在家町は、滋賀県のほぼ中央に位置し、愛知川最下流で琵琶湖に接している。標高が低く、琵琶湖の水面と田んぼの標高とがほとんど変わらないという地形にある。耕地は、琵琶湖に注ぐ一級河川のかつての氾濫地帯に広がる砂質土壌であり、肥効が適切な時期に切れるなどコシヒカリの栽培に適している。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

当協議会は、かつての琵琶湖で当たり前のように見られた魚が田んぼに自由に入りする風景を取り戻すため、平成18年より滋賀県とともに「魚のゆりかご水田プロジェクト」を進めている。当プロジェクトでは、農薬・化学肥料を通常の5割以下に削減するなど琵琶湖の環境・生態系保全に貢献しているほか、安全・安心かつ良品の米生産につながっている。協議会における本プロジェクトへの取組面積は、平成18年当初では約10haであったが、平成26年度には約30haに達している。また、本プロジェクトにより生産された米は「魚のゆりかご水田米」として販売されており、出荷量も平成25年産の約59tから平成28年産では約71tに増加している。

・受賞者の特色

（1）地産地消の食農・環境教育の実践

水田オーナー制度を取り入れ、近隣住民や県内大学生、県内企業の社員等を受け入れ、毎年、田植えや生き物観察会、稲刈り等のイベントを実施している。また、首都圏の中学生を農家民宿に受け入れる交流事業や魚道見学会や生き物学習会などを実施している。

（2）「魚のゆりかご水田米」の栽培と6次産業化の推進

「魚のゆりかご水田米」を使った米粉で製造したパンや洋菓子を、地元業者と連携して製造・販売している。また、老舗酒造メーカーと連携した酒米栽培にも取り組んでいる。

・普及性と今後の発展方向

本取組は、付加価値の高い「魚のゆりかご水田」による米の生産や、琵琶湖の環境保全に貢献しており、積極的な教育活動を通して次世代を担う子ども達の地域への郷土愛も育てている。今後も、工夫や改善を重ねながら活動し、地域資源や伝統を守り次世代に継承していくため、環境への配慮と6次産業化への取組を組み合わせることで、さらなる地域の活性化につなげていくことを目指していく。